2025年7月6日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

聖霊降臨節第5主日

朝第1礼拝 9:00~10:10
朝第2礼拝 10:30~12:00
〈神の招き〉
前 奏 ① トッカータ ホ短調 バッヘルベル
② 我ら今聖霊に願いまつる ブクステフーデ
招きの詞 詩編62:6~9
交読詩編 14:1~7
讚美歌 12
〈神の言葉〉
聖書 サムエル記上16:12~13
(旧約 聖書協会共同訳 438頁)
マルコによる福音書14:1~9
(新約 聖書協会共同訳 89頁)
祈 禱
讚美歌 ①55
奉 唱 ②I-242
説教 「主に香油を注いだ女」 熊江秀一牧師
祈 禱
黙 想
讚美歌 567
聖 餐
讚美歌 78
〈神への応答〉
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献 金
主の祈り
宣教報告 ②
頌 栄 28
派遣と祝福
前 奏 ① イエスはわが喜び バッハ
② 我らみな唯一の神を信ず ツァッハウ
宣教報告 ①

夕 礼 拝 18:00~19:10
〈神の招き〉
前 奏 いざ、わが魂よ、主をほめまつれ バッハ
招きの詞 詩編62:6~9
交読詩編 14:1~7
讚美歌 13
〈神の言葉〉
聖書 イザヤ書42:5~9
(旧約 聖書協会共同訳 1112頁)
ルカによる福音書2:22~38
(新約 聖書協会共同訳 102頁)
祈 禱
讚美歌 461
説教 「救いを待ち望む」 佐藤潤伝道師
祈 禱
黙 想
讚美歌 536
聖 餐 司式 熊江秀一牧師
讚美歌 78
〈神への応答〉
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献 金
主の祈り
宣教報告
頌 栄 28
派遣と祝福
後 奏 いと愛しまつるイエスよ、我らここに バッハ

今週の御言葉 (マルコによる福音書 14 : 8~9)
この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もって私の体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。よく言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

ギデオン協会ラリー 第2礼拝後於礼拝堂

次週の礼拝(7月13日)

① 9:00、② 10:30
説教「ユダの裏切りの予告」
熊江秀一牧師
創世記50:15~21、
マルコによる福音書14:10~21
交読詩編133:1~5
讚美歌13、57、441、28

夕 18:00
説教「どうして私を捜したのですか」
佐藤潤伝道師
列王記上8:27~30、
ルカによる福音書2:39~52
交読詩編133:1~5
讚美歌1、58、529、28

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。
1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 地域会の為に 4. 牧師・伝道師の為に 5. 日本基督教団の為に
6. ギデオン協会の働きの為に 7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
8. 病気の兄妹の為に

*関東教区お祈りカレンダー 前橋中部教会 高崎教会 高崎南教会

◇先週の説教より「いちじくの木から学ぶ」マルコによる福音書13:28~37、イザヤ書40:1~11 熊江秀一牧師

小黙示録のまとめの箇所が与えられた。主は2つのことを教えた。

一つは「私の言葉は決して滅びない」。これは「いちじくの木」のたとえの中で語られた。主はいちじくの木で季節の変化を見るように、歴史を見据えて、終末が近いことを悟るように教える。

終末の到来を示す、最大の出来事は、主イエスの到来である。それを見据えて、神の国の始まりを知って生きるのである。それと共に見据えるべきことは、天に帰られた主が、再び来られ、神の国が完成することを知って生きることである。

人間の歴史には戦争のような罪の出来事、自然災害、個人の病気等、思いがけない出来事が起こる。主は、その時、神の国が近いことを悟るように告げる。なぜか。天地が滅びても「主の言葉が決して滅びない」からである。この主の教えは、神殿に目を向け語られた。私たちにとっては教会である。

そこにおいて御言葉が語られる。教会はそこに集中する。滅びることがない主の言葉に堅く立ち、御言葉に生きる群れである。

御言葉に生きる者の姿として、主はもう一つの教え「目を覚ましていなさい」を告げた。世の終わりの時は父のみしか分からない。だから目を覚ましているのである。

主はその姿をたとえで教えた。主人である主イエスは僕である私たちにご自分の仕事を割り当てて旅に出た。私たちは、主の仕事（宣教）を託された者として「目を覚まして」主の使命に生きるのである。その時、僕たちは、交代して主人の仕事に仕えた。私たちも教会の中で、互いに助け合い「目を覚まして」主の使命に生きる。そこに私たちの霊的な成長もある。

十字架の前に主が語られた2つの教えを心に刻み、決して滅びない御言葉に堅く立ち、目を覚まして、終末の時を歩もう。